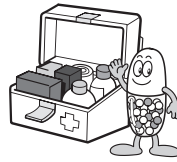


# くすりばこ



薬剤部  
田端 謙吾

## 82. 抗がん剤による副作用 (吐き気・嘔吐) とその対策

### ●抗がん剤治療で副作用はなぜ起こるのか？

多くの抗がん剤は、活発に細胞分裂して無制限に増殖し続けるがん細胞に働き、増殖できないようにするものですが、同時に活発に細胞分裂している正常な細胞(発毛に関係する毛母細胞、血液を作る骨髄細胞、口や胃・腸などの細胞)にも作用するため、さまざまな副作用が起こってきます。今回は、その副作用の中から吐き気・嘔吐についてお話ししたいと思います。

### ●抗がん剤治療による吐き気・嘔吐の分類

抗がん剤治療による吐き気・嘔吐は、脳の中にある嘔吐中枢と呼ばれる部分が抗がん剤によって刺激されるために起こります。また、放射線治療を同時に行ったときに、食道や胃の粘膜に炎症が起こり、吐き気・嘔吐を起こすことがあります。

抗がん剤治療による吐き気・嘔吐は、発現時期によって3つに分類されています。

- ・急性嘔吐: 抗がん剤投与直後から24時間以内に起こる。
- ・遅発性嘔吐: 抗がん剤投与24時間以降に起こり、7日間程度続く。
- ・予測性嘔吐: 過去の抗がん剤治療の際に体験した吐き気・嘔吐の不快感により治療への不安がかきたてられて起こる。

### ●抗がん剤による吐き気・嘔吐に対して使用する薬

抗がん剤の種類、吐き気・嘔吐の症状および発現時期などを考慮し、以下の薬を組み合わせ使用します。

- ①嘔吐中枢を刺激する物質の働きを抑える薬(グラニセトロン、パロノセトロン、ラモセトロンなど)
- ②副腎皮質ホルモン剤(デキサメタゾンなど)
- ③嘔吐を引き起こすスイッチを遮断する薬(アプレピタント)
- ④消化管運動改善剤(メクロープラミド、ドンペリドンなど)
- ⑤漢方薬(六君子湯など)
- ⑥抗不安薬(ロラゼパムなど)

(使用例)

- ・①と②を併用し、急性嘔吐を予防します。
- ・①と②と③を併用し、急性～遅発性嘔吐を予防します。
- ・⑥を使用し、予測性嘔吐の症状を改善します。

### ●抗がん剤による吐き気・嘔吐への対策

吐き気止めの薬を担当の医師の指示どおりに使用することは大切です。

セルフケアのポイントは以下のとおりです。

(予防)

- ・抗がん剤治療の前日は十分に睡眠をとってください。
- ・身体をしめつけるような衣服は避けましょう。
- ・においの強いものは避けましょう。(花、香水など)
- ・揚げ物などの脂っこいもの、香辛料の強いものなどは吐き気を起こしやすいので、控えめにしましょう。

(吐き気や嘔吐が起きたら?)

- ・衣服をゆるめて、右側を下に横向きに寝て身体を内側に曲げ、安静を心がけましょう。
- ・脱水にならないように、十分に水分補給をしてください。
- ・冷たい水でうがいをしたり、氷やキャンディーなどを口に含んでみましょう。
- ・室内の換気をよくして、リフレッシュしましょう。
- ・ゆっくりと腹式呼吸を行い、気持ちを楽にしましょう。(吸う息より吐く息をゆっくり長くする)
- ・音楽を聴いたり、テレビを見たりしてリラックスしましょう。

### ●最後に

抗がん剤による吐き気・嘔吐に対する薬の使い方は、現在では、症状が発現しないようにするために予防的に使用するのが一般的です。

しかし、すべての方の吐き気・嘔吐を予防できているわけではありません。治療のためだからと我慢をせず、吐き気や嘔吐が起きたら、医療従事者にご相談ください。



化学療法室ではフルフラット方式のリクライニングチェアでゆったりと治療を受けていただけます。